

## 目 次

### 基準 1 教育理念・目的・育成人材等

- 1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか
- 1-2 学校の特色は何か
- 1-3 学校の将来構想を抱いているか

### 基準 2 学校運営

- 2-4 運営方針は定められているか
- 2-5 事業計画は定められているか
- 2-6 運営方式や意思決定機能は、効率的なものになっているか
- 2-7 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか
- 2-8 意思決定システムは確立されているか
- 2-9 情報システム化等による業務の効率化が図られているか

### 基準 3 教育活動

- 3-10 学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向づけられているか
- 3-11 修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか
- 3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか
- 3-13 各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けされているか
- 3-14 キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか
- 3-15 授業評価の実施・評価体制はあるか
- 3-16 教育目標に向け授業を行う事ができる要件を備えた教員を確保しているか
- 3-17 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか
- 3-18 資格取得の指導体制はあるか

### 基準 4 教育成果

- 4-19 就職率（卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率）の向上が図られているか
- 4-20 資格取得率の向上が図られているか
- 4-21 退学率の低減が図られているか
- 4-22 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか

### 基準 5 学生支援

- 5-23 就職に関する体制は整備されているか
- 5-24 学生相談に関する体制は整備されているか
- 5-25 学生の経済的側面に対知る支援体制は整備できているか
- 5-26 学生寮等、学生の生活環境への支援は行なわれているか
- 5-27 保護者と適切に連携しているか
- 5-28 卒業生への支援体制はあるか

## 基準 6 教育環境

6-29 施設・設備は教育上必要性に十分対応できるよう整備されているか

6-30 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか

6-31 防災に対する体制は整備されているか

## 基準 7 学生の募集と受け入れ

7-32 学生募集活動は、適正に行われているか

7-33 学生募集活動において、教育成果は性格に伝えられているか

7-34 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行なわれているか

7-35 学納金は妥当なものとなっているか

## 基準 8 財務

8-36 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか

8-37 主要な財務数値に関する情報とその推移を正確に把握しているか

8-38 年度予算、中期計画は、目的・目標に照らして、有効かつ妥当なものとなっているか

8-39 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか

8-40 財務について会計監査が適正に行われているか

8-41 会計監査を受ける側・実施する側の責任体制、監査の実施スケジュールは妥当なものか

8-42 私立学校法における財務情報公開の体制整備はできているか

8-43 私立学校法における財務情報公開の形式は考えているか

## 基準 9 法令等の遵守

9-44 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか

9-45 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか

9-46 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか

9-47 自己点検・自己評価結果を公開しているか

## 基準 10 社会貢献

10-48 学校のボランティア活動を奨励・支援しているか

10-49 ボランティア活動として

## 1. 総括

九州デザイナー学院は、九州安達学園創立者で初代理事長安達建之助の『建学の理念』に則り、昭和 43 年に東京デザイナー学院九州校として開校しました。昭和 58 年に、学校法人九州安達学園として認可校名を「専門学校九州デザイナー学院」に変更。現在、総合デザイン学科、ビジュアルデザイン学科、ゲームクリエイター学科、マンガ学科、イラストレーション学科、トイデザイン学科、インテリアデザイン学科、ファッションデザイン学科、日本語学科の 9 学科を設置する総合デザイン専門学校です。

### 基準 1 教育理念・目的・育成人材等

#### 1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか

学校法人九州安達学園の教育理念として『ひとりでも多くの学生にこころのふれあいと、あらゆる技術を向上させ最大の満足を提供する。そして学園の繁栄、教職員の幸福、地域社会への貢献をめざす。』と定めている。また、本校の基本方針として『力強く生きる力を持ったクリエイターを育成する』のもと、仕事や作家活動を継続していくために必要な、発想・行動・コミュニケーションの力とともに、学び続ける意識を「当たり前」にする。そのためにクリエイターとしての土台づくりを重視し、学際的なカリキュラムと学科分野の枠を超えた『実践リアル』教育の提供を図る。また、「開かれた学校」「社会に視野を広げる教育」を推進し、保護者・企業・地域との信頼関係を深めるために、保護者会やインターンの実施、地域ボランティアなどの積極的な参加を促している。

#### 1-2 学校の特色は何か

本校の特色として、隣接する学園 3 校を含め 29 学科から自由に授業が選択できる『FA システム』が挙げられる。デザイン系、映像系、ビジネス系、観光系の学校の学科・教科の中から学生の興味・関心に照らし合わせ自由に履修する事ができる。

#### 1-3 学校の将来構想を抱いているか

平成 19 年度から事業計画（3 カ年）を作成している。その中で、学園の綱領「建学の理念、教育理念、教育目標、経営理念、経営目標」を踏まえ、教育改革の推進と産学協同による実践的教育の更なる質の向上を目指すとともに学校運営の基盤の安定を図っていきたい。

## 基準 2 学校運営

### 2-4 運営方針は定められているか

各年度当初に開催される理事会で学園の運営方針が決定され教職員に周知される。日常業務においては各法人毎に責任者会議が定期的で開催され、それぞれの学校、セクションに周知され運営方針に沿って各業務や教育活動が遂行され、報告、随時見直し検討が成されていく。

### 2-5 事業計画は定められているか

年度毎に各学校で作成される。これらは、理事長、本部長、校長ほか理事の承認を得て年度当初の各校全体会議にて教職員に発表し周知される。執行状況は、各セクションが進捗を把握し、月末もしくは随時統括して報告する。また上記を要約した「事業計画」や「事業報告書」は、毎年度末の理事会で決議した上で、私立学校法に従い5月末に整備し関係者から要請があった場合、閲覧に供している。

### 2-6 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか

運営組織については、「組織図」にて明確に示されている。学務部、広報部、事務局の各セクションは、常に業務計画に従ってそれぞれの業務を遂行し、かつ有機的に連携し機能している。「理事会」と「評議委員会」は、学校法人運営について定めた「九州安達学園寄付行為」により、また「責任者会議」や各セクション会議など、主要な会議はその他の規定により明確に位置づけられ、定期的で開催し、それぞれの議案の審議にあたっている。以上のような組織運営体制は長年の実績があり、効率的であると判断できる。

### 2-7 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか

教職員の就業及び給与等の事項は、就業規則や給与規定において明確に定められている。教員の専門性については、採用時に精査しているが、経年変化による教育効果の把握が課題で、今後は実績についての本人の申告、資格取得、研修受講、校内授業評価、学校運営への貢献度等により定期的に、個人面談を含め充分把握できるシステムの強化を検討中である。

### 2-8 意思決定システムは確立されているか

学校運営に関して各組織「学務、就職、広報、事務局」の権限・役割区分は尊重しつつ責任者間で協議を学校全体のバランスを見つつ決定する必要がある。責任者会議にて各部署の案件を確認、検討、承認しており、公平かつ迅速に行なわれている。

常に全部署の責任者が納得の上で承認している。意思決定が円滑に行なわれる様学内規定に基づき各階層における権限を明確化している。

## 2-9 情報システム化等による業務の効率化が図られているか

データベースによる情報の一元化とシステムダウンやHDクラッシュを想定したバックアップシステム、また不正アクセス、ウィルス被害の回避、災害への対応を考慮した情報システムを構築しています。

在学生：全館無線LANを完備しておりインターネットで情報収集が可能です。

学期末のアンケート入力を入力させ各教員にデータを紹介し授業改善を促す事が可能

職員：日々の出欠、期末の成績の入力により随時出席状況、成績の確認が可能、学生指導、カウンセリングを実施しデータベースに入力し、他の 部署でも閲覧し情報の共有をしている為ペーパーレスに効果がでた。

職員のスケジュール、学科のイベント、行事なども一覧できる。一斉に学生がアンケート入力等を行なうとサーバがダウンしてしまう事があったが現在は改善されています。

4校で同一サーバを立てている関係でクラッシュなどの際のバックアップサーバを立てて改善しています。

### 基準3 教育活動

#### 3-10 学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向づけられているか

##### ■ビジュアルデザイン学科

「実社会で即戦力となる人材育成」を掲げ、「考える力・言葉にする力・伝える力」を身につけるカリキュラムを編成し、産学協同を積極的に行い、毎年社会状況に対応すべく改編をしている。

##### ■ゲームクリエイター学科

「基礎能力を上げ、即戦力となる人材育成」を掲げ、企業が求める基礎力の向上を考えたカリキュラム編成している。また、業界の変化を常に意識し、毎年社会状況に対応すべく改編をしている。

##### ■マンガ学科

「基礎力・コミュニケーション力を高め、強い気持ちでデビューを目指す人材育成」を掲げ、デビューできるようにカリキュラムを編成し、出版社への持ち込みを積極的に行っている。また、幅広い分野に対応できるカリキュラムを検討していく。

##### ■イラストレーション学科

「技術力・表現力・コミュニケーション力を高め、イラストレーターとして活動できる人材育成」を掲げ、様々なニーズに対応できるイラストの土台づくりを考えたカリキュラムを編成し、対外的な活動を積極的に行っている。

##### ■トイデザイン学科

「造形力の向上と、プロ意識を備え造形師をめざす人材育成」を掲げ、イベント（ワンダーフェスティバル）への参加などで意識を高め、業界の認識や業界からの評価を高められるように努めている。

##### ■インテリアデザイン学科

「柔軟な発想と表現能力を持ち合わせた人材育成」を掲げ、業界・仕事をイメージできるようにカリキュラムを編成し、産学協同やインターンシップを積極的に行いプレゼンテーション能力を高められるように努めている。

##### ■ファッションデザイン学科

「消費者に伝わるデザイン・スタイリングを提案できるデザイナー・スタイリスト育成」を掲げ、産学協同に向け基礎教育を根幹にカリキュラムを編成し、企業持ち込みの作品制作や企業とのコラボレーションを積極的に行っている。

#### ■総合デザイン学科

九州デザイナー学院 8 学科から、興味・関心がある分野を学びながら学生個々が方向性を具体的にし、各学科が掲げる人材を育成していきたい。

#### ■日本語学科

国際的に通用する職業教育を行い、文化・サービス等産業の発展に寄与することを目的に設置している。進学や就業するための日本語教育とともに、本学が永年培ってきたデザインの創造力を有効に活用し、日本文化、社会人マナーや職業人としての資質を高めていくことを学びの特色とする。

業界ニーズの把握については、就職担当者を始め、教科担当者が学科目標業界・企業に直接働きかけ、意見をヒアリングし学務マネージャー、学科責任者が、それぞれカリキュラムに反映させるようにしている。

### 3-11 修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか

学科ごとの目標と指導内容、指導方法、評価方法も明確にしている。さらに全教科の授業 1 コマ毎のシラバスを「コマシラバス」と呼んで、目的・内容・到達目標を学科毎に、責任者に提出する体制を整えている。

### 3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか

カリキュラムについては、校長、学務マネージャー、学科責任者のもとで体系的に編成されている。また毎年見直しを行い、業界の動向に沿った形で改編し、業界の求める人材に応えられる学生を育成している。

### 3-13 各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けされているか

各科目の指導内容、方法等を示したシラバスが作成されており、学科の各科目は適正に 1 年次、2 年次に配分されており、明確な位置付をされています。

### 3-14 キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか

キャリア教育科目を 1 年次より導入し「働く観」の育成を図っている。また、業界セミナーを年数回実施する事により、具体的な仕事の理解を促している。

### 3-15 授業評価の実施・評価体制はあるか

学生による授業評価は、前期 2 回と後期 2 回学生アンケートにより実施している。また校長、学務マネージャー、学科責任者による授業オブザーブも行っている。これらによって授業内容や授業法について各学科や学校全体で把握するとともに授業担当者にフィードバックし、授業改善に利用している。

### 3-16 教育目標に向け授業を行う事ができる要件を備えた教員を確保しているか

教員については、担当する学科、担当科目に応じて専門性の高い教員を採用している。採用後も資格対策講座や業界セミナー、研修会への参加を積極的に促し教員のレベルアップを図っている。それらに加えて、教員間の情報共有やコミュニケーションを円滑にするために定期的に教員ミーティングプログラムを実施している。

### 3-17 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか

成績評価・単位認定基準は明確に決まっており、学則や教員配布用の学校運営マニュアルに示されている。それに全学生・保護者に配布される「学習の手引き」にも詳細が記載されている。

### 3-18 資格取得の指導体制はあるか

資格・検定の取得については、必要に応じて学科ごとの目標資格、必修検定・資格を設定している。目標としている資格の取得サポートに関しては必修科目とし、定期的または不定期で対策講座を実施している。



## 基準 4 教育成果

### 4-19 就職率（卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率）の向上が図られているか

キャリア教育の実施およびインターンシップの推奨により意識も高まり就職率は向上している。

### 4-20 資格取得率の向上が図られているか

資格取得に関しては、授業意外でも対策講座を行い、取得向上に努めています。

### 4-21 退学率の低減が図られているか

退学率の低減については、毎日出欠の状況を確認し、学生指導を行っています。また保護者と連携をとりながら改善するように取り組んでいます。

### 4-22 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか

卒業生の活躍や活動状況は、日頃から学校、先生と良好な関係から卒業後も報告がされている。また、在校生の活躍や活動状況は充分把握しており、対外的な活動を積極的に行うように指導している。

## 基準 5 学生支援

### 5-23 就職に関する体制は整備されているか

基本就職に関して『人材セールス』の制度がある。担任がカウンセリングにより希望企業を確認し、就職課がその企業へアプローチし、インターンシップを依頼し、可能であれば就職へ結びつける。

### 5-24 学生相談に関する体制は整備されているか

学生相談に関しては、担任制を取っており、定期的なカウンセリング 2 ヶ月に 1 回全員と状況確認、就職希望調査を行なっている。随時個人的な質問にも対応できる体制を取っている。

### 5-25 学生の経済的側面に対知る支援体制は整備できているか

学生の経済的側面に対する支援対策に関しては、「日本学生支援機構奨学金」による申込みを主に薦めている。希望者全員貸与できている状況である。

### 5-26 学生寮等、学生の生活環境への支援は行なわれているか

学生寮等、学生の生活環境に関しては、提携寮があり、学校と寮管理者で学生の状況を把握し、学生が快適に生活できるように努めている。

### 5-27 保護者と適切に連携しているか

保護者との連携に関しては、入学式後、保護者会を実施しており、その中で心配な事、問題を抱えてる事を担任に相談してもらい、今後の学生の支援を行なっている。また、成績表を年 4 回送付しており、問題があれば保護者と連絡をとり改善に努めている。

### 5-28 卒業生への支援体制はあるか

卒業生への支援に関しては、九州安達学園校友会が、内容を審議し支援するように努めている。また卒業後にスキルアップが必要な場合、科目履修生制度を活用し、必要な科目だけ授業を受講する事ができる制度がある。

## 基準 6 教育環境

### 6-29 施設・設備は教育上必要性に十分対応できるよう整備されているか

施設・設備に関しては、教育上必要とされた機材、設備は導入されている。また、メンテナンスに関しても、定期的に行い学生の安全や授業に支障がないように努めている。

### 6-30 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか

学外実習、インターンシップ、海外研修等に関しては、企業とのコラボレーションを積極的に行い、またインターンシップに於いても多くの学生が経験できるように努めている。海外研修は、自由参加でヨーロッパ研修を行っているが、ここ2年ほどは安全性を考慮し、研修地を変更している。

### 6-31 防災に対する体制は整備されているか

防災に対する体制に関しては、毎年度防災訓練を実施しており、各教室、施設に防災担当者を決め日頃より火災の危険性がないか注意確認させている。

やむを得ず被災した場合の報告手順、担当者、避難誘導などそれぞれ担当者を決め防災訓練の際、確認、模擬訓練を行なっている。またその際、通路の防火扉、エレベーターシャッター、消化設備の扱い、消化器の使用体験などを行い、具体的な対応ができるよう訓練を行なっている。

## 基準 7 学生の募集と受け入れ

### 7-32 学生募集活動は、適正に行われているか

本校の学生募集活動の基本は、学習内容・教育成果・卒業後の進路などの正しい情報を分かり易く伝えることに重きを置いている。また、より深い理解の基で進路を考えてもらうためにオープンキャンパスや説明会を多く開催し、保護者の来校を推奨するとともに、複数回参加してもらうことで進学 mismatches を防ぐよう努めている。更に、高等学校の先生に授業の様子を見て頂く見学会を頻繁に実施し、在校生との面談などを含めて教育の実際を理解頂けるよう努めている。

### 7-33 学生募集活動において、教育成果は性格に伝えられているか

上記のような活動の他、高等学校の訪問により在学状況・資格検定の状況・進路の決定状況など、教育の成果は負の面も含めて正しく報告している。

### 7-34 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行なわれているか

高等学校の調査書に重きを置き、入学募集要項にその旨記載している。

### 7-35 学納金は妥当なものとなっているか

理事会、評議員会において設備・機材・人材などの教育環境の維持向上に必要なかつ妥当であるか審議し決定している。

## 基準 8 財務

財務状況は学校法人全体を捉えると健全といえる状況にある。また、九州デザイナー学院を単独校でみた場合においては、募集定員を下回っているものの、安定した学生数を確保し収支状況は良好である。福岡の博多駅前オフィス街にある校舎の立地としては、好環境であり、少子化や大学進学志向の高まりなど厳しい状況にある中、学生募集状況においては検討していると思われる。

収入の大部分が授業料収入を占めることから、学生募集定員の確保が急務であり、改善ポイントとしては、最もウエイトが高いと思われる。また、学生の継続率についても収入に影響を及ぼすことから、現状の良好な継続率を確保する必要がある。経費については、予算策定の段階で時間を設け、内容精査を行い、ムダ・ムラ・ムリが生じないよう客観的な立場で組み立てることを心掛けている。

単位：千円

収 入		支 出	
自 己 収 入	450,844	教 育 研 究 費	36,970
授業料収入	(445,143)	人 件 費	124,603
その他収入	( 5,701)	一 般 管 理 費	135,441
運 営 費 交 付 金	0	受 託 研 究 経 費	0
寄 付 金	0	そ の 他 の 経 費	1,437
受 託 研 究 費 等 収 入	0		
そ の 他 の 補 助 金	0		
合 計	450,844	合 計	298,451
		収 支 差 額	152,393

### 8-36 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか

学校全体での7年程度の財政状況は把握には努めている。毎年、剰余金を出すことで、自己資本比率を高め、基本金組入れ等を行い安定した学校法人会計を目指している。

財政基盤の安定を判断する目安としてキャッシュフローの推移を参考にしている。

中長期的な観点で、人件費や設備投資などビジョンを持って取り組んでいく必要がある。

### 8-37 主要な財務数値に関する情報とその推移を正確に把握しているか

財務数値など経営に必要な資料の作成については、毎月作成し都度経営側に提示してい

る。現況では、学校部全体での毎年の財政状況は健全であり、安定的と判断している。常に経営側と意見交換を行うことで、財務状況の変化については、逸早く対応ができる体制をとっている。

今後の経営の方向性など、諸問題の解決に向けては、つねに経営側と問題意識の共有が重要だと考える。そのためには、的確な資料・的確な情報を速やかに提示していかなければならない。

#### **8-38 年度予算、中期計画は、目的・目標に照らして、有効かつ妥当なものとなっているか**

次年度の収入予測を基に、予算編成方針を打ち出し、経費支出額を検討し、予算策定計画を進める。経営に反映させることで大きな齟齬は生じていない。

現状・具体的な取り組みとしては、経費の細やかな予算化を行い、稟議制度を設け、所属長および校長の承認を受けて執行している。

中期計画として、3ヶ年毎に学校計画を策定し、教員構成や設備投資など、学科の目的や目標に向け、次年度に繋がる投資をおこなっている。

#### **8-39 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか**

予算執行は経理部で管理し、予算残高は、必要な科目について当該担当者が把握できるよう稟議制度とともにシステムが構築されており、逐次発生する問題箇所は改善が加えられ、現在の強いシステムに至っている。

予算については、各種規定に定められている。予算執行・予算管理システム・稟議制度については相当期間の実績を踏まえ実施されてきており、現状では満足いくものである。

収入減が生じるようであれば、人件費や一般経費などの見直しを行い、至急の手立てを図ることで、授業運営上の不具合が生じないようにしている。予算は消費するものでなく、需要を創るという観点に立ち予算執行を行っている。

#### **8-40 財務について会計監査が適正に行われているか**

税理士法人の公認会計士による監査が適時実施されており、会計監査は毎年度実施している。現預金・現金等価物・新規資産・固定資産とある中で、学校運営の基本となる現預金の動きを一番の強化事項として実施している。

また、法律改正等を踏まえて適正に判断されているかを確認するため、日々の監査がおろそかにならないよう学校会計基準との連携を図っている。

**8-41 会計監査を受ける側・実施する側の責任体制、監査の実施スケジュールは妥当なものか**

学校側から事務局長・経理スタッフが対応し、公認会計士及び当事務所職員2名の計3名体制により、双方のスケジュールの合意により会計監査を実施している。

過去の監査を参考に、改正事項及び問題点等を協議しながら実施され、学校会計基準の変更ならびに法律改正も注視しながら監査実施を行っている。

**8-42 私立学校法における財務情報公開の体制整備はできているか**

私立学校法に基づく財務諸表の公開については、平成17年4月以降、私立学校法の規程に従い閲覧申請書を準備し、閲覧目的に応じ公開している。

**8-43 私立学校法における財務情報公開の形式は考えているか**

財務状況については、利害関係者にわかりやすい公開方法を心掛ける。

財務状況では、貸借対照表は法人合算となってしまうが、損益計算書等については、学校毎の内容がわかるよう資料を提示している。学園ホームページで公開するにあたり、一般にわかりやすい公表の方法を検討し実施していきたい。

## 基準 9 法令等の遵守

本校は、法令・設置基準を遵守し、学園理念である『ひとりでも多くの学生に心のふれあいとあらゆる技術を向上させ、最大の満足を提供する。そして、学園の繁栄、職員の幸福、地域社会への貢献をめざす。』の実現のために適宜適切な学校運営を行うよう努力している。

### 9-44 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか

総合事務局が法令遵守についての総合的な管理にあっており、学校に関わる法令は多岐にわたるが、学園本部で顧問弁護士と契約しており、法解釈等、不明な事案は随時相談可能となっている。また、各種行政指導や所轄長からの通知などは、各部署に回覧し周知するとともに、特に重要な案件については対応を協議している。

### 9-45 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか

平成 17 年 4 月に「プライバシーポリシー」及び「個人情報の取扱いについて」を策定した。

学内の体制としては「個人情報保護規則」を作成し、教職員に対して説明会を実施した。また、新採用の際と新年度に於ける講師契約の際は、「個人情報取扱いについての取り決め」を交わし、個人情報の漏洩、紛失、改ざんがなされないことを確認している。

### 9-46 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか

自己点検・自己評価は平成 24 年度から実施しており、今後は毎年、点検評価を行い改善に役立てていきたい。

### 9-47 自己点検・自己評価結果を公開しているか

自己点検・自己評価結果については、学園ホームページで公開できるよう準備をすすめていきたい。



## 基準 10 社会貢献

### 10-48 学校のボランティア活動を奨励・支援しているか

本校の奨学金制度に『企業奨学生制度』があり毎年 10 名を採用しボランティア活動のリーダーとして活動してもらっている。企業奨学生は一部学費の支援を受けている。

様々な奉仕活動に参加するボランティアを条件に、企業奨学生を中心に、毎週 1 回、博多まちづくり運動に参加し、清掃活動参加を行っている。また毎朝、教職員や学生の有志で、学校周辺の清掃活動を行い、たばこのポイ捨てなどの減少とともに街の美観を働きかけている。

なお、授業の一環としては、老人ホームや障害者施設などを訪れ、奉仕活動を行うことで、バリアフリーやユニバーサルデザインなどを意識させ、子供や高齢者、障害者などの社会的弱者救済が自然の行為として捉えられるよう全学で取り組んでいる。

### 10-49 ボランティア活動として

#### ① 博多駅前違法駐輪指導

福岡市の天神・博多地区はかつて違法駐輪全国ワースト 1 位で問題になり、現在は改善されているが、歩道を占拠し通行を妨害している状況を改善し、車イスの方にも安全に通行できる住みやすい街づくりを目指し、学生も住民という意識を持って活動させていきたいと考えている。

#### ② ボランティアスタッフ協力

博多まちづくり協議会への協力は、地域の方と一番ふれあえるボランティアである。

#### ③ 街なか壁画制作

アトリエブラヴォとの共同による壁画の制作。

# 監事監査報告書

学校法人 九州安達学園

理事会 御中

平成 28 年 5 月 25 日

学校法人 九州安達学園

監事

手塚



私は、学校法人九州安達学園の監事として、私立学校法第 37 条第 3 項の規定に基づき、学校法人九州安達学園の平成 27 年度（平成 27 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日まで）の計算書類（資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表）を含め、学校法人の業務及び財産の状況について監査を行いました。

監査の結果、学校法人九州安達学園の業務に関する決定及び執行は適切であり、計算書類すなわち、資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表は、会計帳簿の記載と合致し法人の収支及び財産の状況を正しく示しており、学校法人の業務又は財産に関し不正の行為又は法令若しくは寄付行為に違反する重大な事実はないものと認めます。

以上

## (8) 学校の財務

### 学校法人 九州安達学園 財務状況

財務諸表 平成27年度（平成27年4月1日～平成28年3月31日）

#### 【資金収支計算書】

■収入の部		単位:円
科 目	金 額	
学生生徒等納付金収入	1,507,248,828	
手数料収入	15,828,944	
資産運用収入	1,292,083	
雑収入	2,129,332	
前受金収入	1,048,272,242	
その他の収入	394,066,268	
資金収入調整勘定	△ 1,053,718,292	
前年度繰越支払資金	4,272,782,272	
収入の部合計	6,187,901,677	

■支出の部		金 額
科 目	金 額	
人件費支出	411,268,115	
教育研究費支出	132,878,081	
管理経費支出	388,212,433	
借入金等利息支出	1,635,186	
借入金等返済支出	3,000,000	
施設関係支出	39,689,960	
設備関係支出	48,748,926	
資産運用支出	46,321	
その他支出	3,510,100,655	
資金支出調整勘定	△ 48,943,305	
次年度繰越支払資金	1,701,263,305	
支出の部合計	6,187,899,677	

**【消費収支計算書】****■収入の部**

科 目	金 額
学生生徒等納付金収入	1,507,248,828
手数料収入	15,828,944
資産運用収入	1,292,083
雑収入	43,509,757
帰属収入	1,567,879,612
基本金組入額	88,438,886
収入の部合計	1,479,440,726

**■支出の部**

科 目	金 額
人件費	411,268,115
退職金引当金繰入	4,528,000
教育研究費	173,231,780
(うち減価償却費)	(40,318,672)
管理経費	506,108,537
(うち減価償却費)	(117,793,771)
借入金等利息	1,635,186
支出の部合計	1,096,771,618
当年度消費収入超過額	382,723,108
前年度繰越消費収入超過額	2,623,239,878
翌年度繰越消費収入超過額	3,005,962,986

**【貸借対照表】****■資産の部**

科 目	金 額
固定資産	12,017,086,062
有形固定資産	10,863,671,920
その他の固定資産	1,153,414,142
流動資産	5,812,197,306
資産の部合計	17,829,283,368

**■負債・基本金及び消費収支差額の部**

科 目	金 額
固定負債	139,782,000
流動負債	1,129,719,695
負債の部合計	1,269,501,695
基本金	13,553,773,387
消費収支差額合計	3,006,008,286
負債・基本金及び消費収支差額の部合計	17,829,283,368

# 学 費

「入学手続要項」に従って、指定日迄に手続をお済ませ下さい。「入学手続要項」は合格通知書に同封してお送りします。学費・諸費用は所定の振込用紙を使用し、納入して下さい。

※領収書は発行致しませんので振込時に銀行から渡される「振込金受取書」を大切に保管して下さい。

単位:円

1年次学費(納入時期/合格通知後指定日まで納入)					
学 科	入学金 (入学時のみ)	設備費(年額)	授業料(前期)	授業料(後期)	1年次 学費合計
全学科※ (日本語学科を除く)	100,000	239,000	390,000	390,000	1,119,000

単位:円

2年次学費(平成30年2月上旬納入)				
学 科	設備費(年額)	授業料(前期)	授業料(後期)	2年次学費合計
全学科※ (日本語学科を除く)	239,000	390,000	390,000	1,019,000

学費以外に寄付金や学校債の購入を求めません。上記以外に校友会費10,000円、団体保険料4,000円が必要です。  
※留学生は留学生募集要項をご確認下さい。

## ■学費納入規定

- (1)学費は、一年分一括納入を原則としていますが、『授業料』のみ『前期(4月～9月)』『後期(10月～3月)』の2期に分けて納入することも可能です。
- (2)指定する期日までに無届けで学費が納入されないときは入学を辞退したものとみなす場合があります。(延納・分納可。要相談。)
- (3)平成29年3月31日までに入学を辞退した場合は受験料、入学金及び事務手数料を除き返還します。